

松阪牛

から版
19号

松阪牛の中でも、兵庫県産まれの牛を長期肥育した「特産松阪牛」の更なる生産振興をねらった松阪牛協議会主催の研修会がこのほど、松阪市の松阪農業協同組合本店で開かれました。特産松阪牛の品評会として毎年注目を集める「松阪肉牛共進会」をテーマに、審査員を務めた人たちを講師に招き、これまでの歴史や特産の特徴などを学びました。

肥育技術の向上を目指して



「松阪肉牛共進会からみる特産松阪牛」と題した研修会の講師は、三重県畜産研究所大家畜研究課主幹研究員、三宅健雄さん、三重県畜産研究所元所長、山田陽稔さん、三重県北勢家畜保健衛生所副所長、森昌昭さんの三人。

この中で、昨年の第64回共進会で審査長を務めた三宅さんは良い牛をつくるための給餌を説明。平成4年の第43回共進会から第58回まで、16回にわたって審査長を務めた山田さんは、共進会の歴史を振り返りながら、優秀な成績を収めた牛の父親となる種雄牛を紹介し、参加した農家らは肥育に活かそうと、熱心に聞き入っていました。

共進会はことし第65回を迎えます。



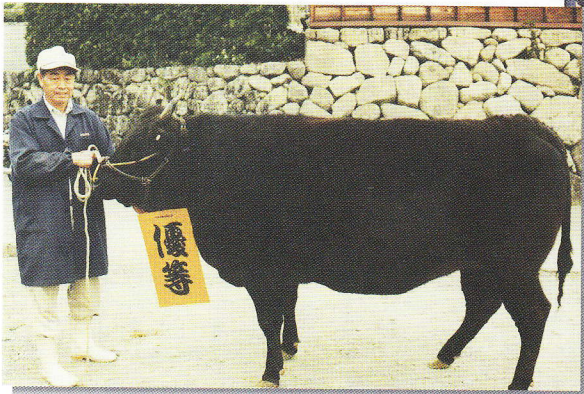
匠をたずねて 6

このコーナーでは「松阪牛のふるさと」といわれる飯南町で、古くから松阪牛の肥育に力を注いでいる人たちを連載で紹介しています。

右の写真は平成7年11月28日に開かれた、第46回松阪肉牛共進会で優秀賞一席に輝いた「ゆきみ号」。下の写真は平成5年、第44回で同じく優秀賞一席の「てつこ号」。いずれも、栃木さんが手塩に掛けた名牛です。

栃木 浩郎さん(81)

松阪市飯南町深野 (その3)



栃木さんの育て上げた牛はこれまでに、最高の優秀賞一席に三回輝き、上位にも何度も入賞しています。自らの実績をもとに、相可高校の生徒たちや、若い農家に餌の与え方や健康管理などのアドバイスをしています。

60年以上に亘り牛を扱ってきた栃木さんは、現在の松阪牛の育て方について「私の若いころのように、家族のように牛を飼い、長い年月をかけて肥らせる人は減ってきたのは非常に残念なこと。じっくりと育て上げる技を若い人たちに伝えたい」と、話しました。

つづく



信頼の証です 松阪牛個体識別管理システム

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 TEL0598(53)4119
平成26年3月 松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください